

東大阪政心会

個人質問 鳴戸 鉄哉

医療的ケアの更なる充実を！

―事業承継問題ついて―

問 今年の中小企業白書によ

ると、中小企業の経営者の年齢のピークはこの二十三年の間に四十七歳から六十九歳に達しており、休業、解散の件数はますます増加する勢いである。これに伴い、技術やノウハウ、地域のネットワークなど、貴重な経営資源が失われていくことが容易に予想される中、小さな企業ほど後継者がいないという事態が深刻になっている。中小企業の事業承継は、今では第三者による事業承継が半分以上を占めており、市内在住の人への事業承継を応援する仕組みが必要である。これらのことを踏まえ、中小企業の事業者に対し、事業承継にメリットを与えるべきであると考えますが、当局の見解を伺う。

―実施している。―

―医療的ケアを要する子どもについて―

問 各ケアアシスタントの勤務実態の違いがあるにもか

かわらず、時間を限定して使えなくなることは、ケアアシスタントの休む時間がふえればふえるほど、親が代わりに学校へ行くことが強制される現状である。そのような状況である中、豊中市では十八人の学校看護師を七つの学校に交代して派遣している巡回派遣型の仕組みをとっている。看護師全員がすべての医療的ケア児の対応をできるようにしておけば、病欠等にも対応しやすく、これは他の自治体にとっても非常に示唆深い仕組みであり、ぜひ本市においても、豊中市のような看護師の巡回派遣型を導入すべきではと考えるが、当局の見解を伺う。

新社会党

個人質問 松平 要

市民に不安を与えるな！個人情報取り扱い扱いは慎重に実施せよ！

―業務委託と個人情報の保護について―

問 過日市民に郵送された生涯学習に関するアンケート

について何人かの市民から問い合わせがあったが、内容は個人情報の取り扱いについての不安であった。今回のアンケートは、どのような方法でデータが抽出され、どのような契約で、どのようなチェックを経て民間会社へ手渡されたのかの肝心な点について全く説明のないまま発送されていたため、市民に不審と不安をもたらした。抽出件数は千五百件とのことだが、そもそも個人情報流出のリスクを冒してまで外注しなければならぬほど人手が足りないのか疑問である。今回の件で市に不信感を持ち、転出を決意された方もいると仄聞している。こうしたところにも自治体のクオリティが問われる時代だと痛感するが、当局の見解を伺う。

―つたかと思っている。今後は業務を行う際には、市民の皆様が不安や疑問を抱くことのないよう細心の注意を払い、市の品位を損なうことがないよう努めていく。―

―留守家庭児童育成クラブの環境整備について―

問 現在多くある留守家庭児童育成クラブの施設環境

整備に関する要望が現場からどの程度上げられているのか。それぞれの対応はどう進んでいるのか。また、低所得世帯に対する支援についての見解と現状を伺う。

照隅の会

個人質問 中西 進泰

地域とともにある学校づくりを目指す

―コミュニケーションスクールについて―

問 学校運営協議会が設置された学校、いわゆるコミュニ

ニティースクールについて、私はこれまで学校と地域の連携強化の重要性を訴え、早期に実現すべきであると、小中一貫教育、義務教育学校のスタートを機にコミュニケーションスクールも導入すべきであると訴えてきた。市長は所信表明で、子供たちを取り巻く環境や学校が抱える複雑、多様化する課題に対応するため、地域とともにある学校づくりを目指し、コミュニケーションスクールの導入について検討すると明言された。教育委員会は今後どのようなスケジュールで導入を検討するのか。

―いきいき長寿表彰について―

問 本年、健康な高齢者を顕彰する事業として、いき

いき長寿表彰が実施された。九十五歳以上で要介護、要支援の認定や介護予防、日常生活支援総合事業の事業対象者の認定を受けることもなく、介護保険料の未納もなく、基準日時点で入院もしていないという要件で行われ、該当者が三十三人もおられたことには大変驚いた。とてもいい事業であるとは考えるが、張り切った授賞式に臨まれた方の中には、表彰状一枚でとてもがっかりしたという声も届いた。これだけの要件をクリアした人を顕彰するのであるから、元氣な高齢者にとって毎年の目標になるような記念品を考えてはどうか。

福祉部長 今年度初めて実施したもので、改善すべき点もあると考えている。議員指摘の記念品の贈呈も含め、表彰を受けた方に喜んで頂けるような、よりよい事業となるよう検討する。